

大学名 金沢大学 外18校
 テーマ名 テーマ4 他大学との統合・連携による教育機能の強化
 取組名称 大学連携による石川の「知」の拠点の創出
 ・いしかわシティカレッジの整備・充実・
 取組学部等 金沢大学，北陸先端科学技術大学院大学，石川県立看護大学，石川県立
 大学，金沢美術工芸大学，金沢医科大学，金沢学院大学，金沢工業大学，
 金沢星稜大学，金城大学，北陸大学，金沢学院短期大学，金城大学短期
 大学部，小松短期大学，星稜女子短期大学，北陸学院短期大学，石川工
 業高等専門学校，金沢工業高等専門学校，放送大学
 取組担当者 共通教育機構長 古畑 徹
 取組期間 平成16年度～平成18年度
 Web サイト <http://www.kanazawa-u.ac.jp/faculty/kiko/gp/gptop.html>

取組の概要

石川県内の19の高等教育機関（大学，短期大学，高等専門学校及び放送大学）は「いしかわ
 大学連携促進協議会」を平成11年度に設立し，その連携事業の一つとして石川県庁内に「いし
 かわシティカレッジ」を平成15年度に開設した。このシティカレッジが目的とするのは，各高
 等教育機関が有する人的資源，学習機会を相互に提供しあうことで，個別の教育機関では実現し
 得ない多様な授業科目を単位互換制度のもとで参加教育機関に所属する学生に提供し，そのニー
 ズに応えるとともに教育内容の一層の充実を図ることである。今回の取組は，このシティカレ
 ヲジでの事業をさらに充実させ，シティカレッジ内での授業に留まらず各教育機関での授業を視聴
 可能とし，自学自習可能な学習環境を構築することである。また，授業内容を広く公開するこ
 とで，一般社会人の知的欲求に応えるとともに，高校生には大学進学への動機づけを図るもの
 である。

実施の経緯・過程

上記「取組の概要」に掲げた目的を達成するため，平成16年度より3カ年に涉って以下のよ
 うな具体的取組を推進してきた。

シティカレッジ受講生の授業アンケート，各教育機関及びその在学生のシティカレッジに対す
 る要望を集計・分析し，新たな授業科目を企画した。アンケート結果を踏まえて改善したもの
 としては，午後みの開講であった土曜日の授業時間帯を午前からとし，4時限の授業時間を確保
 した。また，新たに立ち上げた科目には「老いと死を迎えるための準備教育講座」等がある。

各教育機関から適切な人材を集めるとともに，石川県をはじめとする県内の地方自治体の協力
 のもとで有為な人材を招き，地方の伝統と文化に密着した授業を企画し，開講した。平成17年度
 より開講した「いしかわ学・石川県の産業と文化」，平成18年度開講の「加賀・能登・金沢を飲
 む・いしかわの地酒学入門」がこれに当たる。

各教育機関に所属する教員の研究テーマを精査し，自然及び社会現象を多面的に分析する新た
 な授業科目を企画し，開講した。これについては，シティカレッジを開校する「いしかわ大学連
 携促進協議会」（現「大学コンソ・シラム石川」）が研究領域横断型カリキュラム事業として県内の
 大学教員に研究助成を行い，その成果をシティカレッジ授業科目とすることとした。これによ
 って新規開講された科目には「働くってどういうこと プレ・インターンシップ」，「地域文化論・川
 とともに生きる」，「座の文化と芸術」がある。いずれも教員の研究成果をシティカレッジ授業科目
 に反映させるという趣旨に添ったものであり，研究領域横断型カリキュラム事業の継続とともに
 この種の科目数が増加することが見込まれている。

個別学習コーナーをシティカレッジ内に設置してゼミやグループワークに提供し，課外におい
 ては自学自習の場とした。現時点では，個別学習コーナーに十数台のパソコンがあり，受講生が
 自由に使用にできるようになっている。

シティカレッジ内で開講される授業をデジタルコンテンツ化し，一般社会人及び高校生に提供
 するとともに，シティカレッジ受講生の復習のために提供した。「石川県の高等教育と研究への誘
 い・いしかわの大学が目指す高等教育と研究」の授業コンテンツについては，DVDを作成し県内

高等学校に提供した。なお、この「石川県の高等教育と研究への誘い」については高校生の受講も積極的に受け入れており、高大連携授業として位置づけられている。

各教育機関の教員及び在学生の交流を深めるとともに、シティカレッジを石川の「知」の拠点とする目的で、「学都・いしかわ大学祭」及び「日本海学シンポジウム」を開催した。

目的に対する成果，人材養成面での達成度

「いしかわシティカレッジ」が県内大学の教員と在学生に受け入れられ、同時に各大学における教育を補完する役割を果たしつつあることは、以下に掲げるこの間の開講科目数と受講生数の推移によって示されている。提供機関開講科目数、つまり各大学のキャンパスで開講される通常授業の単位互換科目としての提供数が減少し、シティカレッジでの開講科目数が増加傾向にあることは、シティカレッジが県内大学共通の教育施設として認知されつつあることを示しており、この意味でも「シティカレッジを様々な専門を学ぶ学生や社会人などが集う場とすることで、新しいキャンパス文化と発展させる」という当初の目的に一步近づくことができたと考えられる。

年度別開講科目数

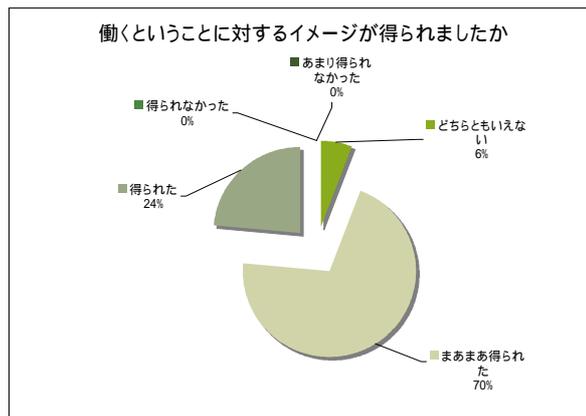
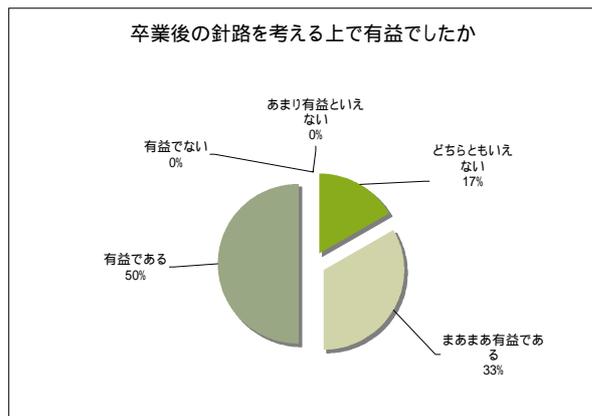
	平成 15		平成 16		平成 17		平成 18		計
	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
開講科目数	59	35	51	28	38	36	44	291	
(シティカレッジ開講)	26	23	32	23	29	27	32	192	
(提供機関開講)	33	12	19	5	9	9	12	99	

年度別受講者数

	平成 15		平成 16		平成 17		平成 18		計
	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
学 生	112	179	197	148	267	258	400	1,561	
社会人	2	45	49	69	61	112	98	436	
総 計	114	224	246	217	328	370	498	1,997	

また平成 18 年度から開講された「働くってどういうこと プレ・インターンシップ」は、これまで各大学でなされてきたインターンシップが3年生を中心とするものであって、初学者に対する職業意識の涵養という点では不十分であったことを考慮し、卒業までの勉学方針を立てるための一助とするとともに従来のインターンシップの欠落部分を補うことも目的としており、2年生（短大については1年生）を主たる受講生として開講した。以下に掲げる授業アンケート結果からも、本授業科目が県内学生の職業意識、社会性を養う上で一点の成果を挙げることができたと考えられる。

本授業科目は計画時点から県内大学の教員の他、石川県高等教育振興室、石川県商工労働部産業政策課、金沢市工業振興課、ジョブカフェ石川、石川県経営者協会、日本学生支援機構、金沢大学生生活協同組合等の協力を得て、合同会議での検討を経て開講に至ったものであり、産官学連携授業という面でも雛形となりうるものである。



自大学の教育改革への影響，他大学等への波及効果，地域社会等への波及効果

シティカレッジにおける単位互換授業開設の目的は、在学生の要望があるにもかかわらず個々の大学の専任教員では開講しがたい授業科目があることを考慮し、県内大学の連携のもとでそれら要望を満たすことを当初の目的としていた。開講科目数はシティカレッジが保有する教室を常時使用する状況となっており、これら科目が学生の要望を満たすと同時に、各大学におけるカリキュラム編成の自由度を増大させている。

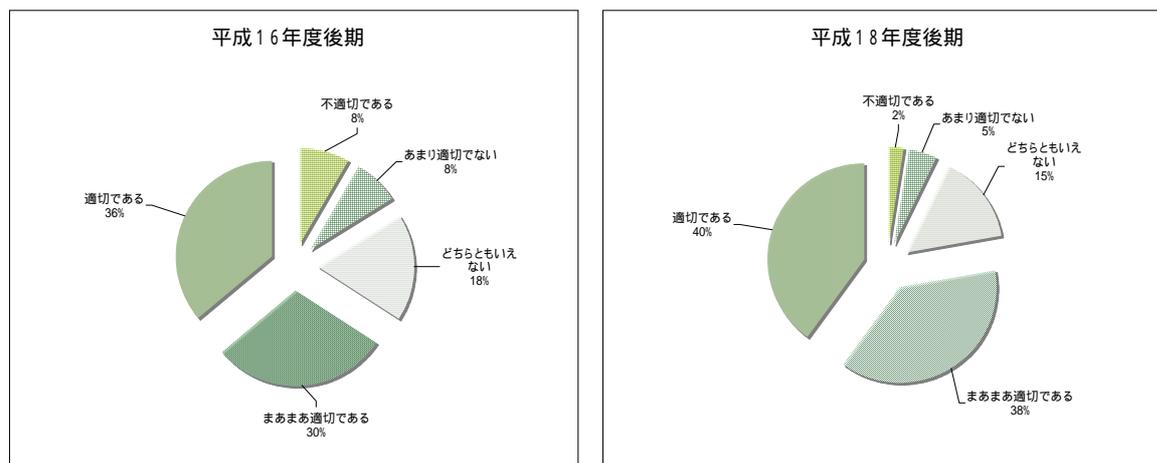
また、社会人受講生数の増加に見られるように、地域社会にも着実に受け入れられつつあり、申請時に掲げた「シティカレッジで開講されている授業科目を県民・市民に提供し、その生涯教育に貢献する」という当初の目的の実現に向かっている。

「石川県の行政・いしかわの行政が目指すもの」「加賀・能登・金沢を飲む」「いしかわ学」「働くってどういうこと」については地域の有為な人材を招き開講が可能となったが、在学生在が意外と知る機会のない地元の産業や文化に触れる機会を提供するとともに、大学と地元との交流の場となっている。とりわけ「働くってどういうこと」に関しては、県内には素材産業を中心とする中小企業が多数立地することと、同時に県内企業に就職を希望する在学生在が多数存在することを考慮して、企業訪問先には地元優良企業を選定した。この結果、通常では触れ合うことの少ない学生と地元企業との触れ合いの場が創出された。

学生等の評価

毎学期行っているシティカレッジ受講生の授業アンケートの「シティカレッジは授業の場として適切だと思いますか」という設問への回答のうち学生から寄せられたものだけを抜き出すと、この3カ年で満足度が着実に向上していることが分かる。ここでは比較のため、平成16年度後期と平成18年度後期のみを掲げる。

学生の評価については、受講生数の増加がそれを端的に示していると言わざるを得ないが、同アンケートの「シティカレッジの教室における設備・備品等は適切だと思いますか」という設問に対しても「適切である」という回答が増加しており、授業アンケートからも本取組の成果があったこと、したがって受講生から肯定的な評価が得られていることが示されている。



学外からの評価

学外からの評価が肯定的なものであることについては、社会人受講者数の着実な増加によって示されていると考えることができるが、授業アンケートのうち社会人受講者の回答を抜き出した結果も前述の各大学に在籍するシティカレッジ受講生の回答と同傾向を示している。勤務時間等の関係で午後6時開講の科目を受講できないという声に対しては、土曜日の開講時間帯を増やしたことで一定限応えることができたと考えている。

取組支援期間終了後の展開

「取組の概要」に掲げた目的を達成するため、本取組において実施されてきた各種事業を継続して行うこととしている。今後の課題としては、授業アンケートを精査することで開講科目をさらに充実すること、社会人を中心として出されている要望であるポルトガル語等の県内大学で開講されていない言語科目の開発があろう。また、キャンパスがシティカレッジから離れているために受講が困難な大学に在籍する学生の受講を促進するための工夫も今後の課題として残されている。これについては、現在の「働くってどういうこと」が夏期集中で開講されているように、休暇期間中の開講科目を充実させることで解決されると思われる。

金沢大学学生部学務課共通教育室管理係
本件お問合せ先 TEL 076-264-5753